



Letter from Jordan No.46

ヨルダン

2022-1 次隊 岡崎 友里

人とものど…が混ざり合う国

早いもので、新しい年を迎え、あっという間に2月の中旬になっていました。私がヨルダンで過ごす時間も残り1か月です。年末年始は、仲良くしてもらっている人たちと一緒に過ごし、日本の大晦日やお正月とは少し違った思い出ができました。そして、日本で起きた地震のことを報道で知りました。ヨルダンの同僚や友人が「日本の家族や友人は大丈夫なの？」と心配する連絡をしてくれ、気にかけてくれる温かく優しい心がとてもうれしかったです。ただ、今も厳しい状況の中で過ごしていらっしゃると思うと胸が痛みます。どうか穏やかで安心できる時間が過ごせるよう願ってなりません。

さて、今年の目標を「つなぐ」ということに決めました。残りのヨルダンで過ごす時間にさらに人とのつながりを増やし、深め、日本に帰国してもそのつながりを維持し、活かしたいです。大変遅くなりましたが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

初日の出(ワディラム)








今年もよろしく
お願いします

ヨルダンは、人口の約7割以上がパレスチナ人と言われ、難民の人が多く生活する国です(No.33参照)。私にはなかなか見分けがつかせませんが、ヨルダン人の他にパレスチナ人、シリア人、エジプト人、レバノン人、トルコ人などいろいろな国の人が生活しています。そのため、これまでも紹介してきたようにそれぞれの国の食べ物や道具、服、生活習慣や文化、様々な“もの”が混ざり合っています。



例えば、コーヒー(アラビア語ではカフェ/カフワ)でもトルコ式、アラビア式、サウジアラビア式があり、多くの種類が混在しています。これらは日本でよく飲まれるコーヒーとは違った味、香りがするので、一度は試してもらいたいです。ヨルダンでよく飲まれる3種類について簡単にまとめてみると、このようになります。

呼び方	トルココーヒー	アラビア/アラビックコーヒー	サウジアラビアコーヒー
淹れ方	深煎りしたコーヒー豆を細かく挽いて煮出す。(火にかけたり、熱した砂で温めたりする。) 	焙煎は地域や好みによって異なるものの、一般的に浅煎りしたコーヒー豆にカルダモンなどのスパイスを入れ、煮出す。(「マジリス」という客間においてコーヒーで客人をもてなす文化は、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、オマーン、カタール4か国からの共同申請によって2015年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。)	アラビア/アラビックコーヒーの一種。焙煎は地域や好みによって異なるものの、特に赤い実のコーヒーが使われ、そこにカルダモンやサフランなどのスパイスを入れて煮出すため、黄色いのが特徴。 
道具	イブリック/ジャズベ/ブクリジュと呼ばれる持ち手が長めのひしゃく型の小鍋	ダラーと呼ばれるポット 	
飲み方	好みで砂糖を入れますが、基本的にエスプレッソのように濃いコーヒーを小さいカップですこすずつ、そして上澄みを飲みます。飲み干した後にコップの底に残ったコーヒー豆で占いもできるんだとか… 	「フィンジャン」と言われる小さいコーヒーカップに注がれます。フィルターで濾されているものが多いです。こちらも砂糖はお好みですが、砂糖を入れずにナツメヤシの実(デーツ)や甘いお菓子と一緒に飲みます。 	

コーヒーにまつわる「こぼれ話」

アラビックコーヒーはおもてなしのために出されるものの、注がれるコーヒーの量によっては意味が変わるのです。カップの半分くらい注がれると、歓迎の意味になりますが、満杯に注がれると「早く帰ってくれ。」という意味になるのだそう。注がれる量に注目する必要があります…。

そんなヨルダンで生活をするシリア人から聞いたシリアのこと、ヨルダンでの暮らしについて伝えさせてください。なぜ、シリアなのか…個人的なことですが、たまたま日本の文化や日本語が好きだと言うシリア人の女性とその家族に出逢いました。彼らの故郷に何があったのか、ヨルダンへ来て、どのような生活をしているか話をしてくれ、会う回数を重ね、一緒に過ごすうちにもっと彼らのことを知りたいと思うようになりました。ヨルダンにいと、国内の穏やかさについて忘れそうになるのですが、周辺国で起きている戦争や紛争は、故郷を離れた彼らにとっては忘れられないことなのだと考えさせられます。もう少し詳しく、シリアという国がどのような国なのか、故郷を離れざるを得なかった人がいることについて触れさせてください。

「シリア・アラブ共和国」

(お便り内では「シリア」と表します。)

- 面積：18.5 km²
(日本の約半分)
 - 人口：2,156万人
(※2022年推定値
CIA the World Factbook)
 - 首都：ダマスカス
 - 公用語：アラビア語
 - 宗教：イスラム教87%
キリスト教10%
その他 3%
- (2022年推定値 CIA the World Factbook)



外務省HPにも「アラブの春」について説明あるのでご覧ください。



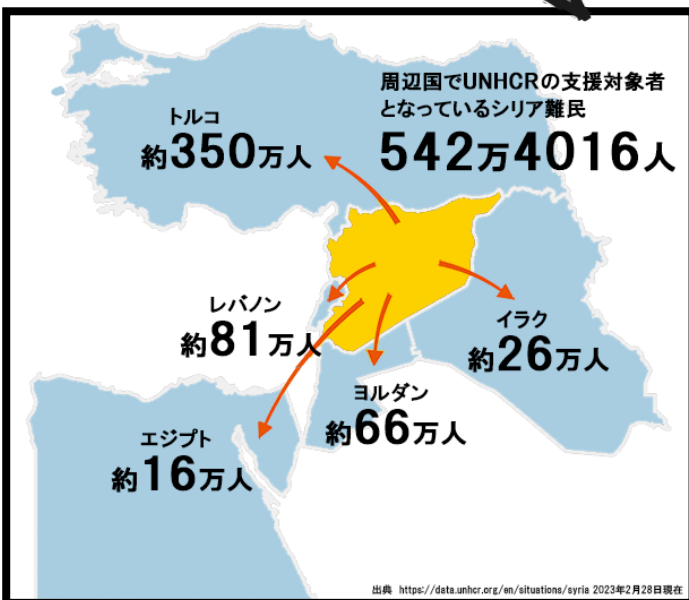
【外務省HPより引用】

内戦前のシリアを知っている彼らは、口をそろえて「シリアはいい国だった。教育も充実していたし、食べ物も文化も素晴らしいものばかりだった。」と言います。そのような素晴らしい国に一体何が起きたのか…それは、争いです。「アラブの春」と呼ばれる出来事をきっかけにして、それまでの独裁政権から脱して民主化を訴えるための運動が始まり、内戦が起きたのです。

「アラブの春」とは？

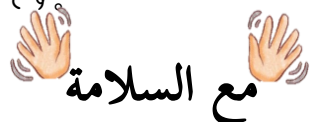
2010年の12月から2011年の春にかけて、北アフリカや中東のアラブ諸国で巻き起こった民主化運動の大きな流れをたどっている言葉。北アフリカ・中東のイスラム諸国では、国王や強力な指導者・大統領による政治が行われてきた。いずれの国も政治的には安定していたが、長期政権による政治的な腐敗、人権の抑圧、富の集中による貧富の格差の拡大などによって民衆の不満が蓄積していた。2010年12月、チュニジアで失業中の若者の抗議の自殺をきっかけに民衆の不満が爆発、大きな抗議デモ、民主化運動に発展し、23年にわたり政権を維持してきたベン＝アリー大統領を亡命に追いこんだ（ジャスミン革命）。この流れは同じような政治状況をかかえる周辺のアラブ諸国につぎつぎと飛び火し、2011年2月にエジプトのムバラク大統領の退陣、ヨルダンのリファーイ内閣総辞職、そしてリビアのカダフィ政権の崩壊と、民衆による運動が政権を打倒した。時期を同じくして、アルジェリア、イエメン、サウジアラビア、オマーン、バーレーン、シリア、クウェート各国でも民衆の抗議活動が展開され、政権による妥協案が示された国、いまだに強行に民衆の抑圧を続けている国などもあり、政治的に不安定な状態におちいつている。(「学研キッズネット」HPより引用)

この内戦により、たくさんの方が難民となってしまったのです。シリアに留まった人たちも国内の経済の低迷により、物価は上昇し、生活することが難しくなっています。また、国外に逃亡した人たちも働くためにも許可が必要で合ったり、支援される限られた食料しかなかったり、過酷な生活を送っています。



ヨルダン国内にはシリア難民の人たちが生活するキャンプがあり、多くのシリア人が生活しています。(No.39参照)彼らの暮らしについて聞いてみると、医療費や社会保障の制度など、様々な部分でヨルダン人とは異なるのです。

と、今回はここまで…次回に続きます!





2022-1 次隊 岡崎 友里

食から分かる暮らしと文化

今回も引き続き「シリア」という国について、友人を通して知ったことを紹介します。

当初、何も知らない私は、ヨルダンで食べられる料理と同じものが他の中東の国でも食べられていると思っていました…がしかし、仲良くなった彼女の家に招待してもらった時、目の前に並んだ料理に驚きました。ヨルダンで食べた同じ名前の料理なのに、見た目が異なるのです。驚いている私に「ヨルダンとシリアは異なる国よ。同じ名前でも調理方法や食材がちがうの。」と説明してくれました。そして、彼らに言わせると「シリアの料理の方がおいしいよ!」とのこと…。そんなシリア料理の一部、ごちそうになったものの中から紹介します。

マハシー (محشي)

…「詰められたもの」という意味のアラビア語が語源の野菜にお米やひき肉などを詰めた料理。ズッキーニやナスが多くの人に好まれている印象を受けるが、キャバツや玉ねぎ、ピーマン、トマトなど様々な野菜で作られる。




シリア

中にご飯とひき肉に加えて、炒ったナッツが入り、一度素揚げしてからヨーグルトスープで煮込まれていた。




ヨルダン

お米とひき肉が入り、トマトスープで煮込まれたものがよく食べられている。

フェッタ/ファッテ (فتة) …ちぎった薄焼きパンを使った料理。




シリア

素揚げしたパンや茹でたひよこ豆(ホンモス)、ナッツにヨーグルトベースのスープをかけて食べる。




ヨルダン

素揚げした一口大のパンとなす、ヨーグルトとゴマペースト(タヒーネ)が層になって重なっていた。

素揚げされたパンがカリカリ、ざくざく♪

シリアでは緑茶を飲む？

飲む!




正確に言うと、シリアで飲まれているのは、「グリーンマテ茶」という南米で生産されるモチノキ科の灌木の葉や枝を乾燥、粉碎したお茶で日本の緑茶とは異なるもの。「飲むサラダ」と言われるほど栄養価が高いお茶。





シシバラク (ششبرك)

…小麦粉で作った皮にひき肉を包んだ料理。日本の餃子に似た料理。



形に注目!



小麦粉で作った皮でひき肉を包んだ後に焼き、食べる時にヨーグルトのスープをかけて食べる。

小麦粉で作った皮で牛や羊のひき肉を帽子の形のようになり、ヨーグルトのスープで煮込む。

クッベ (كبة)

…ブルゴル (パスタの原料で有名なデュラム小麦を砕いたもの) でひき肉を包んだ料理。揚げる、焼く、煮るなど調理方法は様々ある。



平気だよ！
素手がいいんだ



道具を使わないと熱いよ!



ブルゴルでひき肉を包み、炭火で焼く。シャニーナ (塩味のある牛乳) を合わせるのがおすすめの食べ方。

ブルゴルでひき肉を包み、レモン? ラグビーボール? みたいな形にして、揚げる。



(「世界の台所探検家/岡根谷実里」note より)

隣り合った国でも、ヨルダンとシリアの気候は大きく異なり、地中海に面した地中海気候のシリアでは、魚介を含めたさまざまな新鮮な食材が手に入ります。また、外食よりも家で素材から調理したものを食べる内食文化を大切にすることから家庭において、どんな食材もおいしく調理して食べてきたそうです。祖母や母親から教わり、今でもシリア人の多くは、購入するよりも、素材から調理することの方が多くのではないかと話していました。

彼女の家には電子レンジはなく、これらのご飯を作るには3時間以上かかることもあったと聞きました。丁寧な手作業の手間、そしてもてなそうとしてくれるそのおもいやりの気持ちを感じるご飯でした。おいしいのはもちろん、感謝の気持ちでいっぱいになりました。今は難しくても、将来は、現地でシリア料理を食べることが私の夢の一つです。

Let's talk in Arabic ♪

久しぶりのアラビア語!今回は、国の名前をアラビア語で紹介します♪ヤッラー!

ヨルダンは、

الأردن
読み方: アルオールドン

今回紹介してきたシリアは、

سوريا
読み方: スーリヤ

音が似ているので今回は覚えやすいかもしれません。そして、知っていれば、たとえ日本から距離はあっても身近に感じられそうです♪



では、また次回! مع السلامة



2022-1 次隊 岡崎 友里

国を超えて受け継がれる伝統

シリアについて関心が高まり、調べているうちに、シリアの伝統工芸について知りました。実は、シリアには日本の伝統工芸とよく似たものもあるのです。今回は伝統工芸の1つに着目してお伝えします。



ダマシユキエ ホームページ (「DAMASHQUIE」HPより) サウジアラビア



世界遺産「パルミラ遺跡」



世界遺産「ウマイヤ・モスク」

シリアの首都ダマスカスは、「世界最古の都市」(世界でも最も古い継続的に人が住み続ける都市)の一つです。今から約4000年~5000年前の紀元前3000年に形成されたとされており、エジプトやメソポタミア、そして地中海を結ぶ都市であり、イスラム世界初の王朝(ウマイヤ朝)の首都として繁栄した商業都市でもあります。また、「旧約聖書」や「新約聖書」にも記載のあるユダヤ教やキリスト教にとってゆかりの深い街です。シリアは首都を中心として東西を結ぶ交易地として古くから文明が栄えた国であり、世界最古のモスク「ウマイヤ・モスク」を含む合計6つの世界文化遺産があります。しかし、長く続く内戦の影響により、人々だけでなく、これらの遺産すべてが「危機遺産(危機にさらされている世界遺産)」に登録されています。

約4000年という深い歴史文化の中で、寄木細工(様々な種類の木材を組み合わせ、それぞれの色合

いて作られたもの。※日本の箱根で寄木細工が有名ですが、シリアからシルクロードを経て、江戸時代ごろに日本へ伝わったと言われています。)をはじめ、螺鈿(広い意味で貝を使って飾ること、その製品)、象嵌(1つの素材に異なる素材をはめこむ技術やその製品)、木彫り、織物、刺繍などの工芸技術が発達しました。シリア産の工芸品の高品質さと精巧さは中東地域のみならず、世界でも広く知られています。



そして、私はヨルダンでシリア寄木細工職人のアブーアベドさんに出会いました。彼は職人として40年も様々な作品を作り出してきた人です。



現在ではシリアの内戦の影響もあり、国外へ逃げて道具や材料がなくて続けられずに辞めざるを得ない職人さんも多いそうです。アブーアベドさんになぜ40年以上も長く、故郷を離れてもなお、職人として働き続けるのか理由を尋ねると、「このシリアの伝統工芸を伝え続けていきたい。この技術をヨルダンで知る人はい



アブーアベドさん

ない。だから伝えないといけないと思っている。やめようと思ったことは1度もない。この先も作品を作り続けるよ。」と話していました。時折、シリアの現状に悲しそうな表情を浮かべることもありましたが、やはりこの寄木細工に対する愛情や情熱、仕事への誇りや使命感を感じました。そんなアブーアベドさんの工房へ訪れると、忙しい時間を割いてどのように製作するのかも見せてくださったので、紹介させてください。



さくひん
作品ができるまで…



切り出した木で形を作る。



ひもで固く縛って固定する。



専用の機械で薄く切る。



装飾するものに貼り付ける。



(左から成田さん、赤星さん、アブーアベドさん)

DAMASHQUIE かつどうせいよう

タマシキエの活動内容
職人さんからパーツを仕入れてオリジナルアクセサリを製作・販売しています。

過去に赤星さんが分かりやすくお話された動画です!ぜひご覧ください♪



実は、同じようにヨルダンでアブーアベドさんに出逢い、「シリアの伝統を日本に伝えたい!」という思いをもって職人さんと一緒に活動する人がいます。赤星真弓さんと成田英幸さんです。お二人も過去に青年海外協力隊としてヨルダンを訪れた経験があります。今回お話を伺った赤星さんはなんと、以前紹介したサルトと萩市の観光事業(No.31参考)に関わっていら

っしゃったということが判明!!こんな形で縁がつながるとは…驚きました。赤星さんは建設関係の会社で働きながら「DAMASHQUIE」の活動もされています。せっかくなら1つの支援に絞った方が良いのでは?2つを進めていくことは大変ではないのかと尋ねると、「協力隊という経験を経て、隊員の中には帰国後に直接シリア支援に関わる人もいるが、自分のようなゆるりとした関わり方の支援があってもよいと思う。」と話して

くださいました。この言葉を聞いて、自分がこれから帰国をした後、変わらずに応援したり、支援したりしたい気持ちがありつつも、どうやって関わっていいのかもやもやとしていた気持ちが少し晴れました。なぜなら、国連機関のような大きな組織でなくとも、規模は小さく個人であっても、たとえ不定期ではあっても、誰かのために何かしたいという思いをもって行動することに「決まった形はないんだ。」と思ったからです。専門的で直接的な支援を行う国連組織やNGOももちろん素晴らしいことだけど、形にこだわらず、できることを自分に合った方法で無理せず行うことで、個人であっても継続的な支援につなげることができるということを考えさせられました。

「DAMASHQUIE」という名前が立ち上げられた事業によって、職人さんに仕事を生み、製品の売り上げの一部は、シリア難民支援を行うNGOへ寄付されています。今回紹介したアブーアベドさんの作った寄木細工もアクセサリや木箱となって販売されており、日本でも購入ができます!ぜひ一度、ホームページやSNS等ご覧ください。

DAMASHQUIE
Artisan's collection



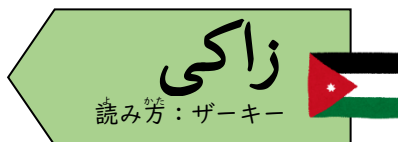
Let's talk in Arabic ♪

今回まで少し詳しくシリアについて紹介しました。アラビア語には主に書き言葉として使われるフスハー(日本語でいう文語)と普段日常で人々が使う話し言葉とその地域の方言であるアンミーヤ(日本語で言う口語)の2種類があります。アンミーヤは日本の方言のように、それぞれの国や地域によって異なり、同じものでも名前や言い方が異なります。シリアの友人に教わったシリアならではのアラビア語を紹介します。

「おいしい」を意味するそれぞれの方言です。



おいしい!



これでシリア人かヨルダン人か分るとか?同じアラビア語でもちがいがあっておもしろいです♪



では、また次回! مع السلامة

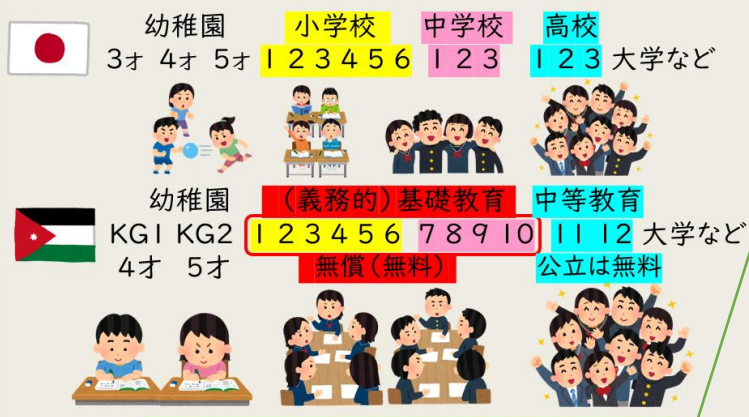


ヨルダンの教育と学校



帰国まで1か月を切りました。皆さんにとっても学年のまとめの時期ではないでしょうか。今回はこれまで調べたり、話を聞いたりしてわかったヨルダンの教育や学校に関する自分を自分のためにもまとめます。日本とのちがいに驚くことが多いのではないのでしょうか？世界の学校に目を向ける機会になれば嬉しいです。(※地域や学校によって異なることがあり、全てが紹介するものに当てはまるとは限りません。)

教育制度



特定の学年から男女別

以前に紹介したこともあるように(No.23)、ヨルダンでは9月に新年度を迎え、2学期制です。

男女共学が一般的な日本の学校に対して、ヨルダンでは、学校によって異なりますが、小学校3~5年生から男女分かれて学習します。共学だった学校の男子児童の多くは4年生から男子校へ行きます。

教育制度

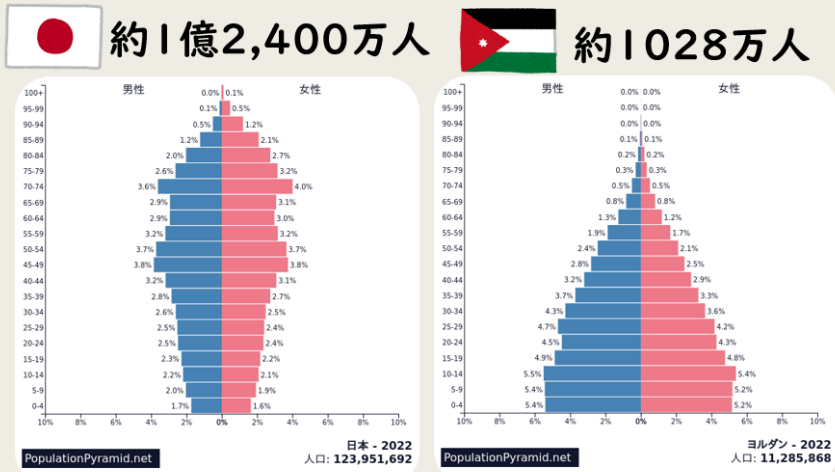
●	4月はじまりの2/3学期制											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2学期制	前期			後期								
3学期制	1学期			2学期						3学期		
●	9月はじまりの2学期制											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2学期制						前期			後期			
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2学期制	後期											

ヨルダンの人口の約40%以上が19歳以下、平均年齢が22.8歳(2018年CIA発表※日本は47.7歳)という子どもや若者の多い国なのです。それゆえに教育学校現場では、「子どもの数に対して、学校や教室、教員の数が足りない。」という問題を抱えています。40人を超えるクラスもあり、2人掛けの椅子に3人、4人で座ったり、教室に通路を確保する隙間がないため、移動は机の上を歩いたり...そんな子どもたちを一人で受け持つ担任の先生はひと苦労という状況を目にしました。

また、さまざまな事情により、学校へ行けなかったり、中退してしまったりする子もいます。



人口ピラミッド



ヨルダンの学校は3種類

公立学校

・教育省(国)や教育局(都道府県)の管理下にある学校。日本の学校と同じように「(義務的)基礎教育」(日本で言う小学校1~6年生、中学校1~4年生)では学費や教科書は無料。



UNRWA学校

・UNRWAが管理・運営する学校。パレスチナ難民の子どもたちが通い、学費や教科書は無料。国内に161校ある。1年生~10年生(6歳~15歳)の11万人の子が通っている。

※UNRWA:国連パレスチナ難民救済事業機関。

※国連(国際連合:国際平和と安全を維持し、そのためにさまざまな問題に対して調整や解決を図る国際平和機関。)

私立学校

・個人や団体が管理・運営する学校。

※今回は、私立を除いた公立とUNRWAに焦点を当てて紹介します。

学校の行事

- ・独立記念日
- ・ラマダン明けのお祝い(イード)
- ・国を挙げてのお祝い(皇太子の結婚式)
- ・世界教師の日
- 祝日や国を挙げてのお祝いごと など

日本の学校のような

始業式、入学式、卒業式、音楽会、運動会、マラソン大会...

ありません



学習内容

- ・アラビア語(国語)
- ・英語
- ・宗教(イスラム教)
- ・算数
- ・理科
- ・社会
- ・体育
- ・図工
- ・音楽
- など

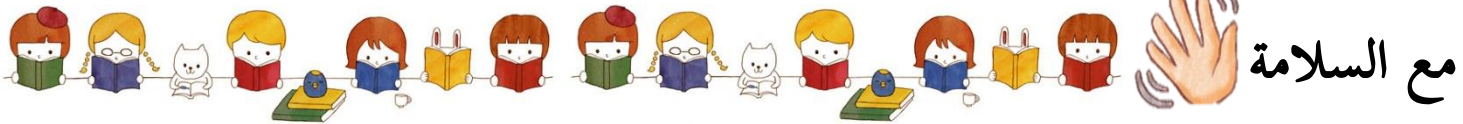
日本で言うところの体育科や音楽科、図画工作科の情操教育は、実施率が低いのが現状です。

現地の先生が授業を行えるように協力隊が活動中!

公立小学校:1名
UNRWA小学校:7名
※2024年2月現在

気が付けば...安定の Let's talk in Arabic のスペースがなくなっていました...

次回はもっと詳しくUNRWA学校について、そしてそこで活動する隊員さんについて紹介します!それでは、また次回!





いっしょ



2022-1 次隊 岡崎 友里



かぎ 鍵をにぎる学校



前回に引き続き、ヨルダンの教育と学校に関してまとめていきます。ヨルダンにある「公立」、「私立」、そして、「UNRWA」という3種類の学校のうち、ヨルダンの特徴的な学校である「UNRWA」学校に着目してみます。

それぞれの学校では、ヨルダン政府が作成しているカリキュラムに従った内容の学習を授業が行われていますが、管轄が異なるため、施設の設備や時間割等の内容の違いがあります。(※UNRWAって何?ということについては、No.33を参考にしてください。)繰り返しになりますが、人口の7割がパレスチナ人というほど、ヨルダン国内にパレスチナから移住してきた人が多いです。ヨルダンの財政は常に赤字の厳しい状況にあり、そのような中でも難民の人たちが生活できるようにするためには、外国からの国際的な支援が必要になります。そこで、パレスチナ難民に対して、救済支援事業を行う国際組織UNRWAがとても重要な役割を果たしています。

では、UNRWAの学校について詳しく見ていきましょう。

まず、子どもの数に対して学校や教室、先生の数が足りないのはヨルダン国内においてUNRWAも同じ問題を抱えています。そのため、UNRWA学校では、全体の約9割の学校で2つの学校を1つの学校にまとめ、午前と午後の半分にけて授業を行い、運営する「2部制」を取り入れています。



マダバ地域の学校を例に挙げてみます。マダバには、男子校と女子校、2校のUNRWA学校があります。それぞれ1つの校舎を午前と午後の時間に分けて小学校と中学校として使っています。(地域によっては、午前も午後も小学校という学校もあります。)



UNRWA学校の時間割

- 1時間の授業は、夏は40分間。冬は35分間。(日の出前、日の入り後が暗くなり、危ないため。)
- 授業ごとに休み時間はなく、7時間の授業がある。

UNRWA学校の2部制

月	1月	2月	3月
午前	小学校	中学校	小学校
午後	中学校	小学校	中学校

つきごとに午前と午後が入れ替わります。



(冬午前)時間	(冬午後)時間	内容	(夏午前)時間	(夏午後)時間
7:50 ~ 8:00	12:45 ~ 12:55	全校朝会	6:50 ~ 7:00	11:50 ~ 12:00
8:00 ~ 8:35	12:55 ~ 13:30	1時間目	7:00 ~ 7:40	12:00 ~ 12:40
8:35 ~ 9:10	13:30 ~ 14:05	2時間目	7:40 ~ 8:20	12:40 ~ 13:20
9:10 ~ 9:45	14:05 ~ 14:40	3時間目	8:20 ~ 9:00	13:20 ~ 14:00
9:45 ~ 10:05	14:40 ~ 15:00	フルサ(休憩時間)	9:00 ~ 9:20	14:00 ~ 14:20
10:05 ~ 10:40	15:00 ~ 15:35	4時間目	9:20 ~ 10:00	14:20 ~ 15:00
10:40 ~ 11:15	15:35 ~ 16:10	5時間目	10:00 ~ 10:40	15:00 ~ 15:40
11:15 ~ 12:20	16:10 ~ 16:45	6時間目	10:40 ~ 11:20	15:40 ~ 16:20
12:20 ~ 12:55	16:45 ~ 17:20	7時間目	11:20 ~ 12:00	16:20 ~ 17:00

夏の午前は朝早い!

登校後、全校朝会

家から持って来たパンや野菜、スナックを食べる。(その後、当番クラスがごみ拾い。)

登下校は徒歩の他に、自家用車やバスに乗る子もいます。午前と午後の入れ替わりのタイミングは、大混雑!



そんなUNRWA学校で活動中の隊員…

マイヤードさん。東京都出身。熱々のトルココーヒーと友達のお母さんが作るアラブ料理が大好き。最近ハマっているのは、ヨルダンのきれいな夕陽と夕焼けを見ること。



その名も、マイヤードです。
(アラビア語の名前です。)



学校の先生に向けたワークショップ



大学生に向けたワークショップ

アンマン市内にあるUNRWAが管轄する小学校で、体育科の学習を普及促進するために活動しています。主に、学級担任である1~3年生の学級(13クラス)に向けて、週1~2回体育科の授業を行っています。また、運動することや体育科の学習の重要性を学校の先生や教員志望の大学生に向けてワークショップを実施しました。



マイヤードさんの活動先
アンマンの女子校

ヨルダン国内にいくつもあるUNRWA学校の1つの学校で働くマイヤードさん。学校によって異なる環境の中でできることを常に考え、特別なことではなく、学校にある道具を活用し、現地教員にとって無理のない体育科の授業づくりを試行錯誤しながら取り組んでいます。日本の学校のように各学校に校庭や体育館があるわけではなく、あったとしても広くなく、砂よりもコンクリートが多いです。そして使える道具があったとしても、1クラス約35~40人に対して十分な数があるとはいえません。そのため、限られた場所でも全員が身体を動かせるような内容を行うことは簡単なことではありません。



列に並んで記念撮影



徒競走

それでも働く教員を巻き込みながら授業やワークショップを行い、精力的に活動しています。とにかく自発的に広範囲に行動をする人なので、私もよく相談をしたり、助けてもらったりしています。



ガザへお祈りする会

UNRWA学校にしかないパレスチナ文化や歴史に触れる時間があるのも特徴です。例えば、パレスチナの文化を映像で見て学んだり、いまだに日々悲しいニュースが流れてくるガザとイスラエルの戦争に対して、パレスチナ難民の方々の思いを表現する集会が開かれたりするそうです。ヨルダンで暮らしているながらも、“故郷を忘れない。”そんな人々の思いを感じます。



パレスチナについて学習する時間

パレスチナ難民の方々の中には、約75年前に“また帰ってくる。”と思って締めた扉の鍵を今でも大切に持っている人が多くいます。彼らにとって「鍵」は故郷への強い思いであり、希望の象徴です。ヨルダンの街や道のあちこち、そして、UNRWAの校舎内にも「鍵」の絵が描かれています。今回紹介したUNRWA学校は、パレスチナ難民の方々にとって、単なる子どもたちが学習する場所というだけでなく、とても大切に意味のある場所だと考えさせられます。



学校の周りの様子

Let's talk in Arabic! のスペースがなくなりました…また次回をお楽しみに!

مع السلامة!